

# 令和7年度 徳島市川内中学校 総括評価表

		自 己 評 価					学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評 価 指 標 と 活 動 計 画			評 価			
1 学習指導  確かな学力の向上	①個に応じた指導の工夫(わかる授業・楽しい授業の工夫)  ②主体的・対話的で深い学びの実現(言語活動の充実)  ③ICTを活用した個別最適で協働的な学びの工夫	評価指標			評価指数の達成度		総合評定	<p>学習規律ができていることやわかりやすい授業に取り組んでいることが、生徒・保護者のアンケート結果からわかる。先生方の授業に取り組む姿勢が表れていると思う。</p> <p>学力に個人差が出てくるのが中学時代と感じている。遅れがちな生徒への指導、支援は何よりも大切だと思う。家庭との共通理解のもと、一人でも多くの生徒の手を差し伸べてほしい。先生方の授業への工夫が見られ、心強い。</p> <p>タブレット端末の効果的な活用を図ると共に、従来からの読む力、書く力の育成もお願いしたい。</p> <p>個に応じた指導の工夫は、個々の生徒の能力や特性などを集団指導の中で取り組む難しさがあると思うので、その点を考慮すればよく取り組んでいると思われる。さらにその質を上げるためには、アクティブラーニングなどの導入を更に検討、研究してみるのはいかがでしょうかと感じた。</p> <p>ICT活用について、iPadに端末が変更されることで、端末の操作や動作自体は良くなることが予想されるが、wi-Fi環境における同時接続の問題がどうかは気になる。学校だけでなく、市としての環境整備課題かと思うので、学校として不便があれば市に伝え続けてほしい。</p>
			①-1 生徒 「授業開始のチャイムが鳴った時には、授業準備をして着席している」		①-1 A (94%)	(評定)  B		
			①-2 生徒 「提出物を確実に出せている」		①-2 A (88%)			
	①-3 生徒 「授業の内容が理解できている」		①-3 B (83%)					
		①-4 教師 「学習の遅れがちな生徒に、適切な支援をしている」		①-4 B (76%)	(所見) 「チャイム着席」や「授業の準備」などの学習規律や、提出物の提出など、授業に対する基本的な取組姿勢については概ね定着している。基礎・基本の習得により、思考力・判断力・表現力等を育成するための授業工夫に取り組むことができ、生徒もよくわかる授業を実践してくれている実感をもつことができている。一方で、授業内容の理解度には課題があり、今後も基礎・基本の習得や個々の習熟度状況に応じた授業改善が必要である。			
		①-5 保護者 「生徒の学力向上に向けて熱心に取り組んでいる」		①-5 B (84%)				
		①-6 教師 「授業のめあてを示し、振り返りの時間を確保している」		①-6 A (89%)				
		①-7 生徒 「先生はよく分かる授業を実践してくれる」		①-7 A (92%)	授業では話し合い活動の場を意図的に設定する取組は昨年度より達成度が向上しており、対話力の向上にも取り組んだが、自分の考えを説明したり積極的に発表したりすることに苦手意識もつ生徒が多い。また、宿題以外の勉強をする習慣が身に付いていない生徒も多く、生徒自らが主体的に取り組むような工夫が必要である。			
		①-8 教師 「基礎・基本を身に付けさせ、思考力・判断力・表現力等を育成するため授業改善に努めている」		①-8 A (100%)				
		①-9 教師 「学習意欲の高い生徒に、発展的な指導をしている」		①-9 A (87%)				
		②-1 生徒 「自分の考えを他の人に説明したり、積極的に発表したりしている」		②-1 C (53%)	学習効果のある工夫や授業改善の取組のひとつとして1人1台端末の活用に取り組んだが、タブレットの不具合や接続状況の悪化により、活用することが難しかった。			
		②-2 教師 「授業で話し合い活動を取り入れ、対話力や合意形成の力等を育成している」		②-2 B (93%)				
		②-3 生徒 「自分の課題を理解し、意欲的に取り組んでいる」		②-3 B (76%)				
		②-4 生徒 「宿題以外の勉強をする習慣が身に付いている」		②-4 C (59%)	学習効果のある工夫と授業改善の手立てとして、1人1台端末を活用しようとしたが、タブレットの不具合や、接続状況の悪化により、活用することが難しい場面が多かった。ドリル学習や協働的な学びの場での活用、長期休業期間中における課題での活用などに取り組んだが、今後はiPadに変更になるため、更に様々な場面で活用を進める。			
		②-5 保護者 「家庭学習の習慣が身に付いている」		②-5 C (50%)				
		③-1 教師 「生徒の理解を深めたり、協働的な学びをしたりするために、1人1台タブレット端末を活用している」		③-1 C (44%)				
		活動計画			活動計画の実施状況			
		①-1 「チャイム着席」「授業の準備物」「正しい姿勢」「授業に集中」「授業のルール10か条」を掲示するなど可視化し、徹底する。			①学習規律の徹底、授業展開の基本、定期テストへの取組など、校内で共通理解を図りながら取り組むことができた。			
		①-2 定期テストで基礎基本の問題で確認する。			②読む力、書く力、聞く力、対話する力の向上を意図して学習活動を展開したが、自ら積極的に伝えようとする態度の育成に課題がある。			
		①-3 「目標の明示」→「課題解決のための学習活動」→「振り返り」			③各教科において、学習効果のある工夫や授業改善の取組のひとつとして1人1台端末の活用に取り組んだが、タブレットの不具合や接続状況の悪化により、活用することが難しかった。			
		①-4 徳島県学力向上プリントの計画的な活用、プラス1課題の実践						
		①-5 テスト前に「学習記録表」にて目標を設定し、学習状況を記録する。						
		②-1 徳島新聞「鳴潮」の視写を週1回行い、読む力、書く力を身に付ける。						
		②-2 各教科で教科書を読むなど、音読を取り入れ、聞く力、話す力を身に付ける。						
		③ ICT等、学習効果のある工夫と授業改善						

2 道徳・人権・特別支援教育 豊かな心の育成	①人権教育の推進 (いじめや差別のない温かい人間関係の推進) ②道徳教育の推進 (人間としてよく生きようとする態度の育成) ③特別支援教育の充実 (個々のニーズに応じた支援) ④読書活動の充実	評価指標	①-1 教師 「生徒の発達段階や生活背景を理解し、全教育活動において人権教育の推進に努めている」 ①-2 生徒 「いじめや暴力を受けている人を見たら助けようと心がけている」 ①-3 教師 「いじめや他の問題行動等の早期発見・早期対応に努めている」 ①-4 保護者 「いじめや暴力のない学校づくりに努めている」 ②-1 教師 「生徒の礼儀や言葉遣い、マナー等の指導を常に心がけている」 ②-2 教師 「生徒の人格を尊重し、言葉を大切に生徒を指導したり、接したりしている」 ③-1 生徒 「先生は相談したら誠実に対応してくれる」 ③-2 教師 「一人一人の生徒の状況を把握し、生徒理解に努めている」 ③-3 教師 「保護者からの連絡や相談に、迅速かつ適切に対応している」 ③-4 教師 「保護者と連携し、適切に情報を交換しながら生徒の成長を支援している」 ③-5 保護者 「学校は保護者からの連絡や相談、面談に誠実かつ適切に対応している」	評価指数の達成度	①-1 A (96%) ①-2 A (84%) ①-3 A (96%) ①-4 B (84%) ②-1 A (96%) ②-2 A (96%) ③-1 A (90%) ③-2 A (97%) ③-3 A (100%) ③-4 A (96%) ③-5 A (93%)	総合評定 (評価) A	人権教育やマナー指導等が継続的に行われていることで成果を上げていると思う。特別支援教育では、一人一人に寄り添った教育ができていていると思う。 日常生活において、人権意識が育まれている、身に付いている、そのような学校、地域でありたいと思っている。人権の大切さを、全教育活動において示すことで、生徒に気付きや理解を習得させる。意識的な行動が、当たり前の行動につながるように。 教師、生徒とも高い評価指数なので、継続して行ってほしい。 よく工夫と努力を重ねてくださっていると思う。課題としては、SNSなどの使用についてのリテラシー向上により一層の研究が必要だと感じている。 今、SNSを通しての拡散やリテラシーに反した投稿、肖像権の問題などがニュースになっているので、生徒には、自分も周りの人も守るためのネットリテラシーや、AI等の情報を鵜呑みにしすぎない情報判断能力を身に付けてもらいたいと感じている。	・学校生活におけるあらゆる場面を通して、人権意識向上に向けた取組を継続するとともに、人権集会や外部講師を招いての講演会などを充実させていく。 ・インターネットやSNSの利用について、保護者や関係機関と連携を図りながら、ICTリテラシーの向上をめざす。 ・教師の日常の見守りのなかで、礼儀や言葉遣い、マナー指導を通じた自他を大切に心の育成を継続する。 ・引継シートの共有や校内支援委員会の開催により、特別支援教育の充実と情報共有を図る。 ・読書活動については、生徒が興味を持てるよう工夫しながら推進していく。読書活動のさらなる充実に向けて、生徒会図書委員会を中心に啓発活動や図書室の運営を行う。長期休業期間を利用した読書活動の推進や実態に応じた規模でのビブリオバトルなどを検討する。
		活動計画	① 年間指導計画を見直し、人権に関する講演会や人権集会を充実する。 ①-1 研究授業の充実 ①-2 道徳教育の推進・充実 ①-3 人権教育の推進・充実 ② 全教育活動を通して、礼儀や規則正しい生活を送れるよう指導する。 ③-1 校内支援委員会の適宜開催や巡回相談を活用し、特別支援教育の充実を図る。 ③-2 全ての生徒を対象に個々のニーズに対応した特別支援教育を推進するとともに、引継シートを学年・学校で共有したり、個別の教育支援計画・指導計画を作成し効果的に活用したりする。TTの効果的な指導のあり方を考える。 ④ 読書への興味や読書習慣を身に付けるために、本の紹介を取り入れたり、冊数調べをしたりする。	活動計画の実施状況	①年間指導計画を見直し、外部講師を招聘するなど、質の高い授業づくりに努めた。 ②言葉を大切に指導や関わりを教師自身が心がけて実践することができた。 ③校内支援委員会を適宜開催するとともに、引継シート等を活用しながら学校全体で情報共有を行った。 ④朝読書を実施したり、図書だよりを毎月発行し様々な本を紹介したりした。	(所見) 各学年の発達段階や実態に応じ、計画的な取組を展開するとともに、外部講師を招いて授業を工夫した。生徒においても、日常生活で意識的に行動しようとする態度の項目が向上した。いじめや暴力、差別を許さない学校づくりをさらに推進する。 礼儀や言葉遣い、マナー等の指導を通して、自他を大切に育む指導を今後も継続する。 生徒の状況把握や生徒理解、情報共有に努めるとともに、保護者からの連絡や相談等に対応することができた。 生徒のSOSを見逃さず、学校全体で生徒を見守る組織づくりに努める。 朝読書等を含めた平日の読書時間が10分未満の生徒が3割程度いる。今後も工夫しながら読書活動を推進する。		
3 健康・安全指導 安全・安心な学校	①生徒の交通マナーの向上(JNK充実/登下校の安全確保) ②防災教育の推進 ③感染症対策 ④環境教育の推進 (SDGsの視点)	評価指標	①-1 生徒 「交通ルールを守り、登下校している」 ②-1 教師 「安全教育や防災教育の意義を知り、生徒の安全のために取り組んでいる」 ②-2 生徒 「避難訓練や防災訓練に真剣に取り組んでいる」 ③-1 生徒 「毎日、朝食を食べている」 ③-2 保護者 「毎日、朝食を食べている」 ③-3 生徒 「毎日、十分睡眠がとれている」 ③-4 保護者 「夜更かしをせず早寝早起きをしている」	評価指数の達成度	①-1 A (97%) ②-1 A (100%) ②-2 A (95%) ③-1 A (90%) ③-2 A (90%) ③-3 B (72%) ③-4 C (53%)	総合評定 (評価) A	校内での避難訓練に加えて、校外での部活動の避難訓練を行ったことで、生徒たちの防災意識の向上につながったと思う。 川内中学校JNK制度を確立した生徒会活動に在校生は誇りと自信を持ってほしい。自分の身は自分で守ることの大切さを感じてほしい。十分な睡眠は、生活の中で重要であることを話す機会を設けてみてはどうか。 自転車での下校の様子が良くなってきていると思う。 生徒の生活習慣は、基本的に家庭で形成される側面が強いいため、学校の生徒への働きかけによる影響力はどうしても弱くなると思われる。したがって、保護者に対する働きかけの工夫が鍵となると思われる。 今後の改善方策にも記載されていたように、子ども自身の自制心やメディアコントロールの力を身に付ける必要があることと、中学生の内はスマホの機能など	・JNKの点検、見直しを行い、交通事故ゼロに向けて、JNKをさらに推進し、交通ルールの遵守と交通マナーの向上に取り組む。生徒会安全委員会を中心とした啓発活動を継続する。 ・教師や生徒が自ら考えて行動する場面を想定した避難訓練を実施したり、生徒会安全委員会を中心とした活動を展開したりすることで、防災意識の向上と地域の防災リーダーとしての資質や能力を育成する。 ・長期休業期間中を含め、保護者と協力しながら、「早寝、早起き、朝ごはん」の習慣のさらなる定着ならびにスマホ等のメディアコントロールの実践を継続し、生活習慣の確立を図る。生徒会保健委員会を中心に啓発活動を推進する。 ・委員会での話し合い活動を充実させたり、活動の成果を可視化したりするなど、生徒の主体的な行動を促進する。
		活動計画	① 交通指導計画に基づき、交通指導を徹底する。自転車通学生のマナーの遵守。交通安全教室を実施する。 ② 避難訓練では南海トラフ地震の対応を行う。授業中、休み時間、部活中など様々な場面を想定し訓練する。 ③ 食生活に関するアンケートを実施し、給食の時間、学級活動等において朝食の大切さについて指導するとともに、食育ボード等で啓発する。 ④ SDGsを視点とした委員会活動を主体的に行う。	活動計画の実施状況	①JNKを全校で推進することができた。 ②様々な場面を想定して避難訓練を実施した。校外で活動する部活動の避難訓練も実施した。 ③食育アンケートを実施し、生活習慣の確立に向けた啓発活動を継続した。 ④委員会活動では、SDGsの視点を取り入れ、各委員会で目標をたてた。	(所見) 交通指導計画に基づきながら、交通安全教室を実施した。JNK制度の点検・見直しをしながら、生徒が主体となった活動を今後も継続する。生徒自身の達成度は高い水準にあるが、毎日の登下校の様子では、マナーや交通ルールについて地域の方からのご指摘を受けることもあったので、継続して交通安全への啓発活動を推進していく。 年間3回の避難訓練や防災学習の日に加え、校外で活動する部活動の避難訓練も実施した。生徒の防災意識も定着している。 毎日朝食を食べている生徒の達成度が向上しており、		

					<p>実生活への実践につなげることができた。生活習慣の確立に向け、メディアコントロールについても長期休業期間中に実践したが、今後も継続した取組が必要である。</p> <p>今後も、委員会活動を中心にSDGsへの取り組みを継続し、生徒の意識を高める。</p>	<p>を上手に活用して、ある程度の制限は必要かもしれない。</p> <p>ヘルメット着用のための、当事者の声を参考にした研修などがあると、子どもたち自身に響くかもしれない。</p>	
4 生徒指導  たくましく生きる力の育成	<p>①心に寄り添う生徒指導の充実（報道相・関係機関との連携）</p> <p>②生徒が主体的に活動できる場の充実（学校行事・生徒会）（自己肯定感・自己有用感の高揚）</p> <p>③キャリア教育の充実（社会的自立に向けた能力の育成）</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 保護者 「学校は規則遵守に適切な指導を継続している」</p> <p>②-1 生徒 「学校へ来るのが楽しい」</p> <p>②-2 保護者 「学校へ行くことを楽しみにしている」</p> <p>②-3 生徒 「授業の始めと終わりや校外でのあいさつができています」</p> <p>②-4 生徒 「学級で話合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできています」</p> <p>②-5 生徒 「自分の机やロッカーの中の整理整頓を心がけている」</p> <p>②-6 生徒 「係等の仕事にまじめに取り組み、学級の役に立っている」</p> <p>②-7 生徒 「責任をもって掃除をしている」</p> <p>③-1 生徒 「将来の夢があり、目標をもって生活している」</p> <p>③-2 保護者 「家庭で手伝いをしている」</p> <p>③-3 生徒 「自分の進路について真剣に考えている」</p> <p>③-4 保護者 「進路や将来のことについて話をしている」</p>	<p>評価指数の達成度</p> <p>①-1 A (90%)</p> <p>②-1 A (88%)</p> <p>②-2 B (79%)</p> <p>②-3 A (85%)</p> <p>②-4 B (80%)</p> <p>②-5 B (79%)</p> <p>②-6 A (90%)</p> <p>②-7 A (92%)</p> <p>③-1 C (65%)</p> <p>③-2 C (55%)</p> <p>③-3 B (75%)</p> <p>③-4 A (84%)</p>	<p>総合評定</p> <p>(評価)</p> <p>B</p>	<p>勤務場所が中学校の隣なので、生徒の様子をよく目にしますが、落ち着いていると感じる。また、学校行事の参観をする機会があったが、そのたびに生徒たちは楽しそうに取り組んでいてとても良かったと思う。</p> <p>家庭との連携、協力が不可欠である。人とのコミュニケーションがうまくできない生徒が増えている。自己肯定感を高めて、他者への思いやりを深めてほしい。不登校生徒への対応。</p> <p>自分の進路を考えている生徒の割合が高いので、より一層のキャリア教育の充実をお願いしたい。</p> <p>キャリア教育に関しては、外部講師の話聞くことのねらいを様々な職域の方の体験談や職業観に触れるところを越えて、現代社会の科学経済の進化発展を視野に置いた、かなり哲学レベルに近い労働観に入っていくようなことを考えておく必要もあるのではないかと感じている。</p> <p>地域×学校での活動として、町民文化祭での中学生が主体となった企画の発案・運営などはいい経験となりそうである。インプットだけではなく、実体験やアウトプットの機会も増えていくと、より力が身に付いたり、自信を付けるきっかけになったりするのではないかと思います。</p>	<p>・日常の生徒観察や教師間の情報共有を密に行い、年3回の生徒アンケートを活用して、早期発見・早期対応・保護者や関係機関との連携をさらに推進する。</p> <p>・カウンセリングマインドの考え方や姿勢を意識し、ポジティブ行動支援や生徒主体の取組を意識した指導を継続する。</p> <p>・学習環境を整えるため、机やロッカーの整理整頓に関する指導を継続する。</p> <p>・授業のあいさつや登校時のあいさつなど、生徒会が主体となって行う取組を検討する。</p> <p>・生徒が活躍できる場を創出するなど、自己肯定感や自己有用感を育む。</p> <p>・キャリア教育において、外部機関や県内企業と連携した講演会などを発達段階に応じて実施する。</p>	
		<p>活動計画</p> <p>① 学期に1回生活アンケートを実施し、生徒理解に努めるとともに、生徒指導委員会を通して、生徒の把握や情報の共有化を図る。</p> <p>②-1 学級生活や係活動・委員会活動を通して、当たり前のことが当たり前に見えるよう指導する。</p> <p>②-2 登下校の際、教職員や生徒会によるあいさつ運動を実施する。授業の始め、終わりの挨拶を丁寧にする。「ありがとうございました」→「礼」を意識化</p> <p>②-3 学級活動で学級目標やルールを作成したり、学級の問題を話し合いで解決したりする。</p> <p>③-1 各教科等でキャリア教育の視点を取り入れ、キャリアパスポートを効果的に活用する。</p> <p>③-2 3学年間を見通したキャリア教育全体指導計画を見直し、キャリア教育に関する講演会を実施する。三者面談を有効に活用する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①学期に1回生活アンケートを実施し、情報の共有を図るとともに、気になる事項は早期対応に努めた。</p> <p>②係活動や清掃活動などを通して、役割の遂行を指導・支援した。また、学校生活の様々な場面において、あいさつ指導を継続した。</p> <p>③キャリアパスポートの活用やキャリア教育に関する講演会を実施した。</p>	<p>(所見)</p> <p>保護者や関係機関と情報交換を密に行いながら、初期対応に取り組んだ。今後も連携強化に継続して取り組む。</p> <p>ポジティブ行動支援や生徒主体の取組となることを意識しながら取り組んだが、生徒自身が学校生活を楽しみ、主体的に活動していることを感じられるよう指導や支援を継続していく必要がある。また、整理整頓を心がけているという達成度が昨年度より減少しており、学習環境を整えることの必要性を意識しながら、指導を継続していく。</p> <p>キャリア教育に関する講演会では、県内企業から外部講師を招聘し、働くことの意味等について深く考える機会となった。今後も発達段階や実態に応じて、外部機関と連携しながら取り組む。</p>			
5 開かれた学校  地域とともに歩む学校	<p>①積極的な情報交換・情報発信(きめ細かな家庭連絡・HP等)</p> <p>②地域の人的物的教育資源の活用</p> <p>③学校運営協議会の活用</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 保護者 「学校は情報提供が適切である(お便り、マチコミメール、すぐーる、ホームページなど)」</p> <p>①-2 生徒 「連絡プリント等を確実に家庭に届けている」</p> <p>②-1 保護者 「学校は家庭への連絡やPTA、地域との連携ができています」</p>	<p>評価指数の達成度</p> <p>①-1 A (95%)</p> <p>①-2 B (80%)</p> <p>②-1 A (90%)</p>	<p>総合評定</p> <p>(評価)</p> <p>A</p>	<p>運営協議会で、町民文化祭の運営での中学生と公民館の連携についてご意見を委員さんからいただきありがとうございました。公民館でも検討したいと思う。</p> <p>地域行事への協力、参加は大変ありがたい。防災訓練の中心は、中学生の皆さんに担ってほしい。近い将来のリーダー養成である。情報共有は大切である。</p>	<p>・ウェブページの定期更新や「すぐーる」等の連絡手段をさらに活用し、情報の共有を進める。</p> <p>・学校運営協議会の充実を含め、地域の人材活用や、奉仕作業、町内行事、防災学習など様々な機会を通して、地域とともにある学校づくりを推進する。</p>	
		<p>活動計画</p> <p>① 学年だより、個別メール、ホームページ等を充実させ、必要な情報を保護者、地域と共有する。</p> <p>② PTAや関係機関と連携・協力を図り、地域とともにある学校づくりを推進する。また、地域の人材を活用したり、地域の行事に参加したりする。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①毎月発行している学年だよりや、生徒の活動をウェブページに掲載したりするなど、情報共有に努めた。</p>	<p>(所見)</p> <p>学校は情報提供が適切であるということについて、昨年度より大幅に達成度が向上しており、活動報告や校長</p>			

④学校評価による改善	③ コミュニティ・スクールの体制を整備し、学校がめざす姿を地域と共有する。	<p>②PTAの学校行事への協力や生徒の地域行事への参加等、積極的な関わりができた。</p> <p>③学期ごとの学校運営協議会により、体制を整えることができた。</p>	<p>室だよりなど、ウェブページを定期的に更新することができた。すぐーの導入もあり、連絡手段が改善してきており、今後も更に活用を進めていく。</p> <p>PTA奉仕作業、町民運動会、町民文化祭など、教師や生徒が積極的に参画できた。</p> <p>学期ごとに学校運営協議会を開催し、地域の方と情報交換しながら学校運営に取り組むことができた。</p>	<p>保護者の指数が95%で16%も昨年度比アップしているので継続してほしい。</p> <p>川内町は、他の地域よりはよく開かれていると感じる。それでも、少子高齢化によるコミュニティの構造的変化に応じた地域における学校の役割をより深く検討することで、より適切に開かれた学校へと進化していけるのではないかと考える。</p> <p>すぐーの活用は、とても便利で、仕事の時でも要件がわかったり、欠席等の連絡がしやすくなったりした。学年だよりの配信もありありがとうございます。コミュニティースクールに（毎回でなくとも）生徒も数名参加することはできないか。他校では、そのような実施例もあったかと思い、大人だけの視点ではなく、子どもたちのリアルな意見や考え、困りごとなども聞いてみたいと感じる。</p>	
------------	---------------------------------------	--	--	---	--

評定の基準 A：十分達成できた（100～85） B：おおむね達成できた（84～70） C：達成できなかった（69～）